

病院におけるその他の起因物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	20～21	夜勤中、介護職として勤務する2階の病室において、ベッドの中の患者の位置を上部にずらそうと、1人で抱きかかえた時、急激に腰に重さがかかり、ギックリ腰と肉ばなれとなった。	59～	100～299
1	14～15	病室内にて、患者様を車イスからベットへ移乗させた時、患者様の強い拒否・抵抗があり、移乗する方向とは逆方向に引っ張られながら作業したために、急性腰痛、左股関節痛及び左肩関節痛が発生した。	50～	300～499
1	13～14	病室内にて、他スタッフ1名と、患者を浴室に移動させるため、ベットからストレッチャーに移乗しようと2人で持ち上げた際、腰から「ボキッ」と音がして、足に力が入らなくなってしまった。	26～	100～299
1	11～12	病棟ナースステーションで患者見守り中、「トイレ、トイレ」という訴えがあり、興奮している様子もあったので、車椅子トイレへ連れて行った。認知症があり、指示動作が入りづらかった為に、便座に座る前にズボンと下着を下げるよう話すが、そのまま便座に座ろうとした為、ズボンと下着を下げようと介助したところ、患者が左手で腹部を力強く殴るように拳で叩いた。	33～	500～999
1	18～19	精神科保護室にて、患者に食事を職員2名で持っていき対応しようとした際、現認者が扉を開けたとき患者が飛びだしてきて、襲いかかってきた。その際、被災者が制止しようとしたが押さえられず、患者に片手で投げとばされ、肋骨を負傷した。当初、痛みがあるものの我慢していたが、症状が悪化した。	66～	100～299
1	8～9	病院スタッフステーションにて、車椅子座位保持中の患者様（認知症）が姿勢を崩してずり落ちそうになっていたため、看護師2名で中腰になり持ち上げようとしたとき腰部に激痛がはしり、右下肢が痺れて一時立位不能となった。元々腰痛	26～	500～999

		があるが、ベルトを使用しなくても良い程度のため使用していなかった。		
1	15~ 16	本館2階検査室にて、精神科の患者のエコーをとる際、本人が何度も立とうとして落ち着きがなく、介助していたが、本人が強く抵抗し、左手親指をつかみ外側に強く曲げた。直後に親指付け根が赤く腫れ、強い痛みが生じた。	43	500 ~ 999
2	9~10	オムツ交換時、経管栄養後の為ベッドアップの状態であり上半身が左に傾いていた。体勢を直そうとベッドサイド右側より、1人で患者の上半身を手前に引こうとしたところ背部に痛みを感じたが日勤業務を行った。背部痛、頸部痛があり受診したところ骨には異常なしとの事であった。再受診の際に頸椎捻挫と胸背部筋肉痛との診断にて、10日間の安静加療期間を要する。	29	300 ~ 499
2	8~9	病室で患者のオムツ交換を行い、その後患者を右側臥位にし、病衣の背中側を整えるために裾を引っ張った瞬間、腰に強い痛みが発生した。	43	—
2	7~8	手袋着用の上、患者に採血を施行した。採血が終了し、抜針の際に針先の一部が出ていたが、それに気が付かず左第2指に刺した。出血は少量だった。後日、当該患者がHCV陽性であることが発覚した。その翌日、針刺し後の血液検査を行った。数日後、倦怠感、発熱があり受診した。その後、倦怠感と胃の不快感は持続した。その後の受診により急性肝炎にて入院した。後日、検査の結果原因は先日の針刺しが原因であったことが発覚した。	29	1000 ~ 9999
2	9~10	患者病室内にて患者の体位を変える際、ベッド上仰臥位であった。患者の上半身を支えた時に腰椎を捻挫した。	43	100 ~ 299
2	11~12	デイサービス室で配色配膳の補助をしている時に、左手側から歩いてくる人を避けるため腰をひねりながら作業を続け、その後も再び人を避けようとしてもう一度腰をひねった際に体のバランスを崩し転倒しそうになったところ、右手で体を支えようとして右肩関節と腰を打った。	68	500 ~ 999
2	0~1	リハビリテーション内にて患者訓練中に右下肢に過重をかけた時からの痛みである。	23	500 ~ 999

2	15~16	病室で患者のベッド交換時に、引く側のベッドに上がりマットを受けたが、勢い がつきすぎており、ベッドから押し出される形で床に転落した際、右手をついて 受傷したものである。	43	300 ~ 499
3	8~9	仕事のため駐車場に車をとめ、走って道をはさんだ建物の職員用入り口付近（ア スファルト）で前方に転倒した。その際に下顎を殴打し出血し、下顎が不安定と なり、骨折のため入院した。	52	30~ 49
3	17~18	施設内において、夕食介助業務に従事していた際、利用者へ薬の入ったコップを 配っていたとき、近くにいた別の利用者（リクライニング車椅子に横たわってい た）が突然起き上がり、車椅子から降りようとした為、コップを持ったまま支え ようと右手を伸ばすも支えきれず、右側臥位で転倒し、被災者の左足の上に利用 者がもつれるように倒れ、左膝を骨折した。	46	500 ~ 999
3	9~10	洗面所で患者A（身長161cm、体重80.5kg、男性25歳、知的障害）の洗面介助のた め、患者Aの正面に立ち電動カミソリでひげを剃っていた際、患者Aが被災者の顔 をなめるような仕草をしたため、患者Aの体を手で押さえたところ、患者Aが被災 者の頭を両手で挟むように数回叩いた。両耳の閉塞感と音や声の聞こえづらさを 感じるようになったが、その日は経過観察をすることにした。しかし、数日経っ ても両耳の閉塞感と聞こえづらさが続いた。	47	100 ~ 299
3	9~10	体重36.8kgの患者を4F病室のベッドで上向きに寝かせているところ、体交のため 横から抱えて横向きにしようとしたとき、腰がピキッと変わった。	44	100 ~ 299
3	6~7	病院内の自然分娩室での分娩後、患者の出血が多かったため、別室の分娩室の分 娩台へ患者を移動させようとした。スタッフ4人でシーツを担架にして移動させ る際、座った姿勢の状態から患者を持ち上げる形で移動させるとき、腰痛が出現 し、左下肢にしびれを感じるようになった。	33	500 ~ 999
3	13~14	当院西2病棟内のナースステーション内において、当該病棟に入院中の患者様よ り、ナースステーション内の公衆電話を使用したいとの要望があり電話をかけて いたところ、急に興奮状態で電話を切ったあと突然振り向き、側にいた看護師に 殴りかかり、頭部や顔面にかけて殴られ、眼鏡が破損して右頬部に切り傷を負っ	57	500 ~ 999

		た。		
3	11~12	リネン室でスチール製の丸椅子を踏み台にして、棚の上段に衣類を片付ける作業をしていた。作業終了後、丸椅子から降りる際、靴を履こうと右足を靴の上に置いたところ、踏み外し受傷した。	63	300 ~ 499
3	11~12	当院内2階病棟浴室脱衣所にて患者入浴介助途中、機械浴入浴後シャワーチェアに座っている男性患者を更衣用ベットに移乗し、オムツ、ズボンをはかせようと介助している時に患者が抵抗した為、無理な姿勢で着用させていたところ腰に痛みと違和感を感じた。	35	100 ~ 299
4	17~18	透析室内において、C型慢性肝炎患者の穿刺後、使用済み穿刺針を廃棄する際に針を持ち変えようとして、誤って左手掌に針を刺してしまった。	39	10~ 29
4	9~10	患者病室にて、両上下肢の硬さ（屈曲拘縮）があり、更衣が困難な患者に清拭、更衣を介護士と職員2名で行っていた時に、更衣の途中で激しい腰痛を感じ、体動困難となった。	53	500 ~ 999
4	15~16	法人内デイサービスにてレクリエーションの踊りをしている時に、直前に使用した旗が足元にあることに気付かず、左足かかとで旗を踏み転倒し、尻もちと左手首を着いた際に体重がかかり骨折した。	62	50~ 99
4	17~18	エレベーター扉前で配膳車を病棟に搬入するため扉を開けた際、患者が飛び出そうとしたため制止した際、患者より暴力行為を受け、眼の周囲及び両膝を受傷した。	55	100 ~ 299
4	7~8	病室内にあるポータブルトイレを患者さんが使用され、Pトイレからベッドへ移動するのを介助していた。その際、患者さんの足に力が入らず、Pトイレに座った状態で前方へ倒れてきた。患者さんの正面で中腰の状態介助していた為、患者さんが上から覆い被さる形となり下敷きになった。	66	100 ~ 299
4	11~12	院内トランクルームにて、被災者（身長159cm）が立ったまま作業台（高さ76cm）で患者様のおむつの袋に名前を書く際に、おむつの袋を右側に落としてしまい、とっさに拾おうと上半身のみを右側にひねったときに右肩に激痛がはしかった。	37	100 ~ 299

4	18～ 19	病棟内の廊下で、夕食後歩行介助が必要な患者様を二人で病室へ誘導する際、自身は患者様の左側に立ち、左腕を握っていたが患者様の抵抗があり、立ち止まられたり座り込まれたりされた為バランスを崩し、左側足底部左第5足趾側に屈曲した状態で転倒した。	55	100 ～ 299
4	15～ 16	ナースステーションにて電話対応しており担当者に電話をかわろうとした時に、カウンターと机の間が狭く動きづらく他職員が来られた時のはずみでイスをよききれず左アキレス腱付近を負傷した。様子をみていたが痛みが治まらず、歩行に違和感がでた。	25	50～ 99
5	9～ 10	当院3階病棟にて、普段から暴力行為がある統合失調症の71歳女性患者を入浴のため、ベッドのまま入浴室まで移動した。患者の左側に立ち右袖の病衣を外し、左側を向かせようと手前に引き寄せた途端、患者が右手で被災者の右脇腹を3回程たたき、疼痛が発生した。疼痛が軽減したため自宅で様子を見ていたが、しばらくしても疼痛が治まらなかった。	49	100 ～ 299
5	15～ 16	患者様のオムツを交換後、車椅子に移行する際に力を入れ、腰に痛みが走り、歩くのも困難になった。	27	300 ～ 499
5	10～ 11	病棟患者様浴室で入浴介助中、車椅子の患者様移動時、よろけた患者様を保持した際に右膝を捻った。一時激痛が出現したが、そのまま入浴介助を続けたところ、痛みで通常歩行も困難となった。	61	100 ～ 299
5	14～ 15	当法人の院内（クリニック）の透析室にて、患者を車イスからベッドに移乗した際、腰部に強い痛みがあった。立っている間は痛みが少ないため業務を続けていたが、座ったときに痛みが酷くなり、腰椎骨折と判明した。	48	100 ～ 299
5	7～8	病室にて、患者様をベッドより車椅子へ移乗補助中、患者様を抱えた際に腰に痛みと違和感が出た。	60	300 ～ 499
5	10～ 11	当院病室において、患者様を車椅子からベッドへ移動させていた際、腰部の筋肉を痛めた。	41	100 ～ 299

5	0~1	病棟内にて、数ヶ月前にスライドボードを利用した入浴介助に伴う患者の運搬と、当月と翌月に入浴介助業務を行い、それ以外は病棟内で看護師一般業務を行っている。当月に入院患者に疥癬の診断があり、病棟内で感染拡大予防策を強化されたが、身体の一部に発赤と掻痒感があり、疥癬と診断される。	45	100 ~ 299
5	6~7	オムツ交換中、声かけ後にオムツに触れた時に、患者から「何をする」と急に手を上げられそうになった為、顔をカバーしようとして右手でかばおうとしたとき、右手小指に当たり骨折をした。患者は、認知症であった。	59	100 ~ 299
6	10~ 11	2階病棟にて、看護師2名と一緒に車椅子の患者様の移動のために介助を行っていた。右足を車椅子にのせて患者様を抱え、移動させようとした際に、つま先立ちした状態の左足に患者様の体重がかかり、左足下腿の断裂に至った。	43	300 ~ 499
6	11~ 12	病室にて、排便によりオムツ交換が必要な患者さんに対して1人でオムツ交換を実施しようとした際に、便が軟便で多量のため患者さんの身体を手前に引き、右手でオムツを引っ張る動作を行ったところ、急に腰に痛みが発生した。	58	100 ~ 299
6	10~ 11	病院2階A病棟にて、看護師1名と一緒に、患者の体位変換のため、患者をベッドの右側に寄せようと、ベッドサイドの左側に立ち、患者の体の下に両手を入れ、向こう側へ移動させる動作をした際に、左上腕より「ピキッ」という音がして、動かすことが出来なくなった。	38	100 ~ 299
6	10~ 11	病棟にて、お風呂から帰ってきた患者さんの着替えをしている時に腰部が痛くなってきて、歩こうとしたら歩けなくなっていた。	42	300 ~ 499
6	9~ 10	1Fリハビリテーション室にて、体格の大きい患者を車椅子から治療台へ移乗しようとした際、患者が介助者（被災者）を引っ張りながら立ち上がろうとした為、介助者の腰に過剰に負担がかかり負傷した。	31	100 ~ 299
6	15~ 16	当院病棟内浴場にて入浴介助時、患者を抱えた時に腰部に痛みを感じた。その後も痛みを耐えて勤務していたが、我慢できなくなり受診したところ、骨折が判明した。	63	300 ~ 499
	12~	所属している病棟の患者に結核感染が確認され、保健所の指導により血液検査を		100

6	13	施行したところ、陽性、肺結核と判明。通院・投薬治療を行うが、薬の副作用が強く、休業が必要となった。	42	～ 299
6	12～ 13	所属している病棟の患者に結核感染が確認され、保健所の指導により血液検査を施行したところ陽性と判定。活動性肺結核の疑いと診断され入院となる。	62	100 ～ 299
6	16～ 17	3階病棟入院患者の接触者で、被災者は陰性（－）であったが、後日、QFTゴールドが陽性（＋）と判定され、検査入院となった。痰の培養は3回の検査でも陰性（－）であったが、結核感染のため、内服治療開始となった。尚、結核の発症はしていない。	32	100 ～ 299
6	10～ 11	車椅子の利用者の入浴後、車椅子を入れ替えのため2名で対応中、正面より支えて立ち上げようとしていた時、利用者と共にバランスを崩し、浴室内で転倒した。	54	300 ～ 499
6	16～ 17	総合リハビリ室内で、患者様をリハビリ中に発生した。ベッドに座っていた患者様の正面から、両腕を脇の下に入れてお尻の下部を支えて、引き上げた際に腰に激痛が起こり、その後、脱力感が発生した。	24	300 ～ 499
6	17～ 18	4、5日前より腰痛があった。当日は夜勤に入り、夕食準備のため患者様のベッドアップ業務の際、130kg程ある患者様の体を上げる時に腰に違和感を感じたが、そのまま業務を続けていたところ、配膳中に歩くのも我慢出来なくなる程の痛みになり、そのまま動けなくなった。	56	500 ～ 999
7	9～10	派遣先施設内2Fフロアの入居者の室内にて、介護リーダーと2人で入居者を車椅子からベッドへ移乗させる際、前から抱えて持ち上げた時に入居者が急に仰け反るように動いたため、転倒させないように踏ん張ったところ背中部分に激しい痛みを感じ立ち上がれなくなる。その場で歩けなくなったため、車椅子に乗せられ休憩室に運ばれた。戻って就業を続けようとするも動く度に激痛が走るため、その日は早退。背部挫傷により約2週間の加療と診断される。	47	50～ 99
7	16～17	健診センター受付で、ビル管理会社による床清掃作業準備のため、床の上の椅子や備品等を片付ける際、前屈作業が多く腰痛発生。もともと腰椎椎間板症があり。当日は夕方だったのでそのまま帰宅したものの、翌朝腰が伸ばせず、それで	39	50～ 99

		も無理して出勤したところ、上司から休むように言われた。		
7	20~21	病棟のパントリー内で、入院患者に、薬を配っていた時、突然1人の入院患者がパントリー内に入り、何も言わずに私の頸部に腕を巻きつけ、シャーペンで、私の顔面を殴り、左上腕も咬まれ、流血し受傷。	43	1000 ~ 9999
7	11~12	入院患者様の入浴準備中、患者様を車椅子に乗せる時にバランスを崩し転倒する。転倒の際、患者様の下敷きになり、左大腿骨を骨折する。	59	300 ~ 499
7	23~24	夜勤業務中に病室内にて患者さんの体位交換を行った際、急に腰に痛みを感じ、第4腰椎圧迫骨折と診断される。	68	100 ~ 299
7	17~18	看護師と2人で入院患者をベッドから車いすへ移乗させる時に患者のお尻が車いす左側の肘掛けに当たり、患者を持ち上げた時に腰に痛みを感じた。準夜時は人が少ないため我慢して仕事を続けた。そのまま帰宅し、翌日は休みだったが痛みを感じながら自宅で様子を見ていた。その翌日朝起き上がる時、腰に激痛が走りなかなか起き上がれなかった。	61	100 ~ 299
7	9~10	病棟隔離室内で看護師2名とオムツ交換中に突然抵抗され、膝で胸部を蹴られた。普段より暴力行為があり、処置や看護行為施行時は職員複数名で対処していた。	33	100 ~ 299
7	10~11	入浴補助で着脱の介助時に腰を痛めた。	33	10~ 29
7	16~17	病棟内にあるデイルームで入院患者に、突然右目を殴られ胸を蹴られた。	34	100 ~ 299
7	22~23	病院の病室内において、移動に介助が必要な入院患者が車椅子に乗る際、患者を支える介助をしていたところ、被災者がバランスを崩した。足を着こうとした場所には車椅子の足置きがあり、それを避けたところ、左足背外側を下にして着地してしまい受傷した。	42	1000 ~ 9999

7	9~ 10	介護施設での介護業務に従事中、入居女性（155～160cm、40kg程度）の入浴介助を終えて居室に運び、同僚の介護職員と共にストレッチャーからベッドにトランスファーする際に発生した。ストレッチャーをベッドの脇に並べるように配置し、同僚が足側を、被災者が頭側を担当することになり、入居女性の脇の下に手を入れて身体を持ち上げた。そのまま被災者は足を動かさずに踏ん張った状態で、ストレッチャーからベッドに向けて入居女性をスライドさせようとしたところ、腰を捻ったことにより腰痛を発症した。トランスファーを行うためのストレッチャーとベッドの配置（位置関係）、及びトランスファー自体のやり方については普段と変わらず、被災者はこれまで腰痛の症状が無かったことから、自身の身体を捻ったことによる腰への急激な負担が、原因であるものと思料される。	38	500 ～ 999
7	20~ 21	病棟内の患者の部屋にて、患者が床に倒れており、看護師と一緒に患者をストレッチャーに移動させるために持ち上げたところ、その重さで腰に負担がかかってしまった。その日は何もなく過ごしたが、翌日から少しずつ痛みが発生した。	46	300 ～ 499
7	15~ 16	職場のレントゲン室にて、ストレッチャーで運ばれてきた患者を撮影台のベッドへ移乗しようと思い、患者の体が撮影台と離れていたため、身を乗り出して患者の体を持ち上げようとした際に腰に激痛が走った。	24	300 ～ 499
7	15~ 16	病院の病室内にて、患者の排泄介助（おむつ交換）をしていた際に、右手親指に痛みがはしった。その後、痛みを我慢しながら就業していたが、痛みには耐えられなくなった。	37	100 ～ 299
7	18~ 19	病室にて、車椅子からベッドに患者（60代男性）を抱えて移乗するとき、患者が体を動かしてバランスを崩し、左足を捻った。痛みはあったが、脹脛だったので筋を痛めたのだと軽く思っていた。その後も痛みは続き、三日後に内出血も出てきたので、市販の痛み止めでのいっていたが、痛みも増し、正座も困難になった。	47	300 ～ 499
7	15~ 16	消防研修時、2人組でおんぶをして2階から1階へ安全に降りる訓練を行った際、自分がおんぶしてから相手を降ろそうとしたとき、左腰部に痛みがはしった。そのときは大丈夫であったが、翌朝になり、左腰から左足に痛みを感じた。	40	100 ～ 299
		閉鎖病棟にてスタッフが殴られ、駆け寄ったところ、同患者に突然殴りかから		100

7	9~ 10	れ、倒れた後にさらに蹴られた。その後、様子を見たが、頭がボーっとするような気がするため受診した。	34	~ 299
9	13~ 14	休憩が終わり、午後の勤務につく前に総合受付内を移動中、コピー機の横に置いてあった封筒入りのダンボール箱（250×400）に左膝下を打撲し受傷した。数日後、左下腿後面に疼痛・腫脹がみられ徐々に憎悪した。	49	~ 500 999
9	14~ 15	訪問看護中利用者様宅にて、利用者様がベット下部に下がっていた為、頭部側へ移動させようと、御家族といっしょにベット頭部側から利用者様の脇を持って移動しようとしたところ、自分の右胸部に痛みが走り、それ以後、右胸痛より、整形外科受診で、右肋骨骨折と診断された。	56	~ 100 299
9	7~8	精神療養病棟のデイルームで、患者が床に唾をはいていたため、当労働者（准看護師）が「唾を拭いてね」と患者に紙を渡したところ、一度は紙を受け取ったが、その後、当労働者を突き飛ばした。当労働者は左膝をひねり、直後に「ブチッ」という違和感とともに強い痛みを覚えた。	53	~ 100 299
9	9~ 10	患者をベットから抱き起こすとき、ベットのストッパーがかかっておらずベットが動いたので、患者を抱えていたので、股関節が開き負傷した。	64	~ 500 999
9	0~1	口腔内吸引の際「口をあけるように」指示するが開口せず、看護師が開口しようとした際、口角から左人指し指を入れた時、手袋ごと左手第2指先端部を噛まれ受傷した。患者は指示に従える時とそうでない時がある、（日内変動あり）理解力については不明瞭、寝たきりの方である。病名、脳出血後遺症、重度の意識障害。	46	~ 300 499
10	10~ 11	通所介護施設内にて、利用者の立位訓練中、利用者がバランスを崩し、それを支え、立位保持しようとする場面が頻繁にあった。背腰痛があり受診し、?11胸椎圧迫骨折の診断を受けた。	59	~ 100 299
10	7~8	病院の居室にて、朝食前に、患者さんをベッドの上（頭側）へ移動させる為、もう1人の助手と2人で持ち上げ移動させようとした際、左腓腹筋（ふくらはぎ）を損傷。	44	~ 100 299

10	13～ 14	病棟内に疥癬患者が数名いてグローブやガウン装着し、日々看護ケアを行っていた。手背に発疹がみられるようになり受診し疥癬の診断あり。	37	100 ～ 299
10	16～ 17	病棟内で夕薬を配布している時、患者様が転倒しそうになっているのを発見し、患者様を支えようとしたが支えきれず、自分自身も転倒し負傷した。	48	100 ～ 299
10	13～ 14	2病棟内にて、右側臥位で臥床している入院患者を体位転換する際2名で行ったが、右肋骨部をひねった時に痛めた。当日帰宅してから痛みが増した。	74	100 ～ 299
10	11～ 12	第1診察室にて診察介助、患者が身支度を調べ診療台で端坐位をとり、靴を履こうとしたところ、後方へ倒れ転落しそうになり、咄嗟に患者の身体を支えた。その際に自分の身体の体勢が崩れ、診察台に右下腿をとられ受傷した。	52	10～ 29
10	9～ 10	4人部屋の病室にて男性患者様を車椅子からベットへ移乗介助中に受傷。移乗はトランスファーボードを使用して行い、その時の姿勢は中腰だった。ベットへ移乗した直後に右腰背部に重だるさとズキッとする疼痛を認めた。	31	500 ～ 999
10	9～ 10	療養病棟病室320号室で患者様をベットから起こして、車椅子に移動する際に力を入れたとたん、胸背部に激痛があり、そのまま患者様の膝元に倒れこんでしまい動けなくなった。	56	50～ 99
11	11～ 12	冷凍庫前室にて原料を開梱中、前室入口のドアを開けた状態で作業を行っていたが、ドアが急に閉まってしまい、止めようとした際に左手人差し指を挟んでしまった。	48	100 ～ 299
11	16～ 17	1-3病棟廊下において、日勤者からの申し送り後、患者様に挨拶の為各部屋に訪室していた際、先ほど訪室した患者様が後ろから走って来て、振り返る前に突然後ろから背中を2回殴打される。患者様に話を聞いている最中に腹部を1回殴打された。状況報告後、冷湿布施行し経過観察することにしたが、軽減せず医師の指示にて後日整形外科に受診する。胸部レントゲン撮影では明らかな異常は見られないとのことであった。精密検査の為MRIを受けるが体のサイズが合わず、他院に予約してもらったが月末とのことで自分で探し別の病院に受診となる。	33	100 ～ 299

11	17~ 18	病棟に夕食の入った配膳車を入れ、病棟から出ようとした時、入院患者が走ってきてぶつかって転倒し、尻もちをつき尾骨を骨折した。	34 ~ 9999	1000
11	15~ 16	施設内のトイレにて、車椅子に乗った全身不随の利用者（体重約63kg）の両脇を抱え、便座へ移乗していた時、急に利用者の脚が屈曲し、全体重が被災者に負荷され、腰部を負傷した。当日より、市販の痛み止めや湿布で処置していたが、その後症状が悪化し、体動が出来なくなり、救急にて病院を受診した。	59 99	50~ 99
11	17~ 18	病院内3階食堂において入院患者の食事のための移動の付き添いをしていたところ、患者が椅子を引いた際に後ろ向きに倒れそうになったのを支えようとしたが、体勢を崩し患者の下敷きになる形で転倒した。その際に左の股関節を損傷してしまった。	39	50~ 99
12	10~11	グループホームにおいて、認知症入居者のトイレ介助中に、お尻を拭こうとして手を伸ばした際、腰に負担がかかり、激痛により、立ち上がり困難となった。	41	500 ~ 999
12	15~16	精神科病棟ホールにて、お茶のコップの回収作業をしていたところ、精神症状不穏の患者が、他の患者に対して暴言を言っていたので、やめる様に注意をしたが、その患者が無視して暴言を続けたため2~3度注意を繰り返した。すると突然その患者が労働者に対して、顔面を2回平手でたたき、体を押したため机に倒れ込んだ。倒れたところに足蹴りを加え、椅子で殴りかかろうとしたところを他の患者が制止した。	49	100 ~ 299
12	10~11	病院のリハビリテーション室で、リハビリテーション施術中の患者を車椅子からリハビリベッドへ移乗しようとした際、腰部に痛みを感じた。その後、体勢を前に屈める際や歩行時に、腰部の痛みや左踵部の痺れを認めるようになった。	25	100 ~ 299
12	11~12	3階風呂場の外廊下で、他のスタッフが患者をストレッチャーから車椅子に乗せようとしていた。患者が立とうとしたときに上手く立てなかったので、介助しようと患者の腰を持ったところ、姿勢が悪かったのか左腰がグギッとなった。	38	300 ~ 499
		北館へ向かうため、南館1Fにてエレベーターに乗り、行き先ボタンを押そうとし		

12	9~10	たとき、外来患者（69歳・男性・統合失調症）が飛び込んで乗って来て、扉が閉まり、8Fへ向かうエレベーター内にて患者と二人きりになると急に話しかけられ、8Fに到着するまでの間に、突然拳で頭部・顔面・腹部を十回程度殴打された。	47	500 ～ 999
12	23~24	詰め所内にて、机に座り書きものを終えたあと、立ち上がろうとしたとき、机の脚とイスの脚の間に自分の左足が挟まったまま左横に転倒した。	45	300 ～ 499
12	16~17	血液浄化療法室にて、全介助の患者が透析治療を終了したため、電動ベッドにて腰を起こし、ベッドサイドに座位をとってもらい、1人の看護師が車椅子に固定し、本人が両脇に腕を入れて患者を立たせ、車椅子へ移動をしたとき、左腰部を痛めた。	54	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html